

FEBRUARY

福
2月

今月の行事

| 日 | 曜 | 主な行事 |
|----|---|------------------------|
| 3 | 月 | 全校朝礼 委員会(最終) |
| 5 | 水 | 4時間授業(13:00 下校) |
| 7 | 金 | 授業参観・学年委員会 (1・2・6年) |
| 14 | 金 | 授業参観・学年委員会 (3・4・5年) |
| 21 | 金 | 6年生を送る会 |
| 25 | 火 | 卒業式会場設営 |
| 26 | 水 | 登校班編成会議 |

集金日 …… 3日(月)・4日(火)



今月号には、全国学力・学習状況調査の本校六年生の結果と分析を載せました。各家庭での取組に生かしてほしいと思います。



昨年中は、本校の教育のためにご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。
さて、一月十日(金)に三学期の始業式が行われ、三学期は五十日と短いことや「しっかり勉強」「元気に挨拶と運動」「友だちと仲よく」の3つをがんばるよう話をしました。また、四年生全員から今学期の目標について発表もありました。

明けましておめでとうございます

なななつと



書き初め大会南都留地区特選

下線_の作品は市内回覧

| | |
|----|------------------------|
| 1年 | <u>相田 煌</u> 小林蒼大 小宮伊織 |
| | 高部 典 庄司依央 |
| 2年 | <u>石原直歩</u> 田邊沙菜 前田真秀呂 |
| | 今井芽生 佐藤 凜 |
| 3年 | <u>高部亜子</u> 織田唯花 高部雪舞 |
| | 小林遼己 小林大起 |
| 4年 | <u>三枝橙馬</u> 今井琴梨 前田愛桜 |
| | 奈良慶太 桑原京吾 |
| 5年 | <u>渡邊愛美</u> 前田佳凜 前田玲奈 |
| | 林ゆりあ 小林美菜 |
| 6年 | <u>石原茉奈</u> 田中美海 橋中花歩 |
| | 太田愛明梨 矢竹埜乃 |

各小学校の市内回覧作品は、1/31まで宝小で展示しています。ぜひお越しください。また、1/28に行われる南都留地区の審査会で、県特選に選ばれた作品は、山梨県立美術館において、2/12~18の期間に展示されます。

書き初め大会
各教室において、教育祭「書き初め大会」に取り組みました。冬休み中の練習を生かし、一字一字ていねいに書いていました。とても真剣な表情で、心を落ち着かせ、筆を動かしていました。できあがった作品は、各学年の教室や廊下に掲示していますので、学校にお越しの際には、ぜひご覧ください。



めざす子ども像
よく考える子
がんばりのきんこ
思いやりのある子



HPニュース↑

1月号

文責 土屋 実

令和元年度 全国学力・学習状況調査 本校の6年生の結果の分析について

宝小学校6年児童の平均正答率は、国語、算数共に全国・県の平均を超える良い結果で、これまでの学習が十分に定着しているといえます。しかし、領域や問題別に見ると、全国・県と同等、または学力が定着していない部分もあります。

生活面では、学校が楽しく学校を信頼している児童が多く、「将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたい」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめがあってはならない」「地域や社会をよくすることを考える」と考える児童が多いことが特徴的でした。

今回の結果を今後の指導法の改善に生かすとともに、家庭・地域のみなさんと連携して、子どもたちの更なる学力の定着と学習意欲の向上、学習環境の改善等をめざして取り組みます。ご理解とご支援をお願いします。

【国語の結果】

| | 良好なもの | 課題があるもの |
|-------|---|--|
| 出題の主旨 | <ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする。(正答率100%) ○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 | <ul style="list-style-type: none"> ■目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。 ■図表やグラフなどを用いた目的を捉える。 |

裏面に続きます。

【国語の結果】の続き

※ 「話すこと聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率を上回っており基礎的・基本的な知識・技能が身につけています。
 「読むこと」に関しては全国平均正答率と同じでした。「書くこと」については全国平均正答率におよびませんでした。国語の学力の向上に向けて、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、学習者相互の対話を重視し、主体的に学ぶ態度の育成につながる学習活動を行っています。

学習上の困難に応じた指導を工夫し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れてどの児童にも分かる授業を展開していきます。言葉のきまりに関する学習をすることや、国語辞典・漢字辞典を日常的に使って調べながら文章を書く習慣をつけることを行います。また、複数の場面を比較したり、文章全体に広がっている複数の叙述を関連付けたりして読み、叙述を基に理由を明確に記述する学習を充実させることに取り組みます。

【算数の結果】

| | 良好なもの | 課題があるもの |
|-------|---|---|
| 出題の主旨 | <ul style="list-style-type: none"> ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。(正答率100%) ○資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。 ○示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。 ○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。 ○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ■台形について理解している。 ■示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。 |

※ 指導の領域別に見ると「数と計算」「量と測定」「数量関係」については全国平均正答率を上回っています。

「図形」に関しては 全国平均正答率にわずかに及びませんでした。

算数の学力の向上に向けて、国語と同様に基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、学習者相互の対話を重視し、主体的に学ぶ態度の育成につながる学習活動を行っています。

学習上の困難に応じた指導を工夫し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れてどの児童にも分かる授業を展開していきます。全国平均正答率を上回った領域について今後もしっかり指導すると共に、課題の克服に関しては、視覚に訴える教材や具体物を用いた指導を行うことや、グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し説明する活動を取り入れるなどの学習を行うことで学力の向上を目指します。

【学習状況・生活調査の結果】

| | 良好なもの | 課題のあるもの |
|--|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しいと答えた児童が75%で全国平均より21.1ポイント高い。 ・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると答えた児童が75%で、全国平均よりも31.9ポイント高い。 ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると答えた児童が85%で、全国平均よりも25.5ポイント高い。 ・将来の夢や目標を持っていると答えた児童が80%で、全国平均よりも14.1ポイント高い。(自己効力感) ・物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあると答えた児童が90%で、全国平均よりも10.5ポイント高い。(自己効力感・自己信頼感) ・学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがあると答えた児童が70%で、全国平均よりも24.2ポイント高い。(自己決定感) ・学校のきまりを守っていると答えた児童が75%で、全国平均より28.3ポイント高い。 ・人が困っているときは、進んで助けると答えた児童が70%で、全国平均よりも29.6ポイント高い。(自己有用感) ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと答えた児童が95%で全国平均よりも10ポイント高い。 ・人の役に立つ人間になりたいと思うと答えた児童が85%で全国平均よりも10.3ポイント高い。(自己有用感) ・読書は好きだと答えた児童が55%で、全国平均よりも10.7ポイント高い。 ・今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童が60%で、全国平均よりも22.8ポイント高い。 ・家の人と学校での出来事について話をする。 ・地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある。 ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分には、よいところがあると思う児童が10パーセントで全国平均より28.8ポイント少ない。 |

※ 学校に行くのが楽しいと感じている児童がとても多いです。自分には、よいところがあると思うと答えた児童が少ないので、その設問だけ見ると児童の自己肯定感が低いように感じられますが、他の設問の答えを総合的に見ていくと自己肯定感の要素として考えられる自己有用感・自己効力感・自己信頼感に関わる設問で全国平均を大幅に上回っています。担任を始め学校職員全員で児童を見守る様子が児童に伝わっており安心した気持ちで学んでいることや、地域・家庭が子どもたちをあたたかく見守っている様子も分かります。そうした環境が「将来の夢や目標を持ち、人の役に立ちたい」「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめがあってはならない」「地域や社会をよくすることを考える」という児童の心の健全な成長につながっているように思います。

今後はさらに教科の授業や学級活動、児童会活動等で、役割を持たせて責任を果たすこと等の取組を通して、活動への意欲を高め、児童の健全な成長につなげていきます。